

今月のコラム

日本の花文化



株式会社グリーンプラザ 代表取締役 石川 昇

大震災の影響を受け、ライフスタイルが変わり社会状況が購買行動を反映。先日、日経流通新聞発表の「今年の上期ヒット商品番付」は震災で「世のため消費」の活字が大きな見出しでした。節電商品、涼感衣料は消費電力削減に寄与した花き業界のヒット商品、緑のカーテン関連品もそれに類する商品であるが、ヒット商品番付の掲載はなく業界人として淋しいものがある。

各メディアがつる性植物をクローズアップ、特にゴーヤの人气が高く、それだけにわかにはゴーヤ栽培が増え食卓に多く登場することでしょう。私の頭のすみに心配事があり。ゴーヤは人によりかなり好き嫌いのある野菜である。毎日がゴーヤチャンプルーはいかがなるものか？ そうなると収穫が後手となり成長したつるなど手の届かない所で熟した実が異様な雰囲気を作り出しはしないか…。

この度も痛感するが、ヒット商品は社会状況とメディアの関与の多さにより、ビッグな需要を生み、日本人は誘惑されやすく、過去のヒット商品と同様である。

江戸時代の日本の園芸文化はレベルが高くイギリスのプラントハンター、ロバートフォーチンも驚いたことは彼の著書でも明確である。わが国の園芸の発達は園芸書の出版が影響し將軍様から長屋住まいの庶民まで楽しんだ民族である。万葉の時代でも身分の差に関係なく植物への関心は高く、万葉集は三首に一首は植物の歌である。植物を栽培し観賞することは昔からの日本人の文化であり、茶の湯などにも影響しわが国の誇りの生活様式である。

この度の大震災後は、お花見を慎むべきとお触れが禁せられ暗い春であった。浮世絵などでもわかるとおり、美しい花見小袖の着物で花見弁当を持って花見を楽しむ習慣がある。花と共に生活し、花と自然の美しい恵みは人々を感動と交流を生み、四季折々の節句（桃の節句、端午の節句、七夕、重陽の節句など）は植物と関わりが多く、明治、大正、昭和と時代が変わるとともに、洋式文化が盛んとなり、花と自然と共生してきた先人のライフスタイルを復活させ長屋住まいもアパート人も、役人も首相も花を愛でる心をもっと大きく持って頂きたいものだ。花好きの將軍が諸大名に参勤交代を施し、各地の花々が普及し、園芸文化が発展したすばらしい日本の姿をもう一度再現させようではないか！

上の立場の人が花好きになれば庶民も同じ。総理大臣は花好きなのか？ 歴史を作る人物に花好きは多くいる。幕末、終戦そして大震災、日本は荒廃？ それでも花文化は明治の発展、戦後の成長と共に花産業は大きく飛躍し、日本人は思ったよりずっと花文化は根付いているのでは。一部業界人が声を大にし「園芸ルネッサンス」を叫んでいます。今一度考えてみよう、日本の花文化を。植物には不思議な力があり、植物が身近にあるとなぜか心が落ち着き、心がなごみ人の心と体を癒し、丹精込めて育てれば植物は必ず応えてくれる。この喜びを多くの人々に。私達は。



震災支援

大変喜ばれた小学校への震災支援

NPO法人ガーデンを考える会 会長 水野 隆

6月15～16日の日程で、NPO法人ガーデンを考える会の有志メンバー15名で、岩手県釜石市の小学校9校に支援活動に行ってきました。

支援内容としては、各小学校の花壇及びコンテナに花や野菜を贈るという内容で、会のメンバーから花苗・野菜苗・コンテナ・用土・肥料・殺虫剤・支柱・手袋・移植スコップ・花のタネ等々を募りました。植物苗としては花苗が約2500ポット、野菜苗が約450ポット分で、花のタネとしてはヒマワリを主体として数万粒になりました。物資は一旦、花巻市の日植運輸岩手営業所に集荷し、6月15日にレンタカー4台に分荷して、翌16日の早朝から3班に分かれて釜石に向かいました。各小学校には届けるだけでなく、児童と一緒に植え込んだり、我々の手で植え込んだりも行ってきました。

写真は小佐野小学校の植え込み風景で、4年生の児童46人がコンテナ23個に花や野菜を植え込みました。植え込む植物は児童各自で好きなもの2ポットを選び、コンテナに4ポットずつ植え込みました。マスコミで報道されているように、釜石市の小中学校児童の生存率(?)は98%以上と高く、これは地震教育のたまものと先生方は語っておられました。それにしても、家族や親戚・家屋等の被害にあった児童も

少なくない中で、児童皆が歓声を上げながら植え込みを楽しんでいたようでした。植え込み後には児童によって感謝の歌まで歌ってもらって、逆にこちらが励まされたような感じでした。

被災地の状況はテレビ等で見るものと違い、まさにすざましい風景でした。復旧にはまだまだ多くの時間がかかるものと思われ、NPO法人ガーデンを考える会としては、これを第一弾として、今後も被災地の小学校児童に対して幅広い長期的な支援をしていく予定です。

今後とも会の活動にご支援ご協力、宜しくお願い致します。



支援物資をトラック等に積み参加した一行



小佐野小学校での支援活動



子供たちはこの日のために歌を練習し、楽しみにしていた

人的支援、物資等に協賛いただいた会員等(敬称略)

アップルウェア・キムラグリーン・グリーン情報・小林花卉・シモジマ・鈴木園芸(三重県)・東海化成・東和コーポレーション・中島商事・ニチカン・日本植物運輸岩手営業所・ハイポネックスジャパン・ハクサン・ハクサンインターナショナル・長谷川園芸・ヒノマルナーセリー・フラワーオークションジャパン・北越農事・牧野・緑のマーケット・緑化技研・レイ・ハウス



カエデ
kaede

 **グリーンアドバイザー**

花いっぱいキャンペーンin大船渡

東日本大震災の被災地復興支援活動の一環として、日本家庭園芸普及協会のグリーンアドバイザー委員会主催の花いっぱいキャンペーン in 大船渡 が5月21日（土）・22日（日）岩手県大船渡市で実施された。被災地のひとつである岩手県大船渡市の避難所・仮設住宅等に、地元のグリーンアドバイザーが中心となって、プランター200個に植え込んだ花やジョーロ、移植ごて、肥料を贈り、地元の人たちに大変喜ばれた。



 **ガーデンを考える会、総会開催**

新理事に福永氏(豊明花き)、坂井氏(横浜植木)

NPO 法人ガーデンを考える会は、6月8日午後、東天紅上野店において、平成23年度通常総会と記念セミナーを開催しました。

通常総会は、FAJ 平田理事が司会となって進められ、最初に水野会長より「東北の被災地に6月15・16日に、花を届けに行くが、これで終わりではなく、継続していきたい」旨挨拶があり、続いて環境省自然環境局総務課の常富豊氏より、来賓挨拶がありました。

総会は、E&G アカデミー佐藤理事が議長となって進められ、23年度事業では、第2回目のガーデントライアルを9月27・28日にフィオーレ小淵沢で開くのをはじめ、被災地支援活動、セミナーなどを開催するとしました。

新役員として豊明花き・福永哲也社長、横浜植木・坂井清志社長室室長の新理事が紹介されました。

続いて開催されたセミナーでは、宮崎大学の國武久登教授が「家庭果樹を目的とした品種改良の必要性」、山下ようこ都議会議員は、「オフィス室内緑化を東京発のグリーンニューディールにする」と題して講演し、好評を博しました。



 **会員紹介**

株式会社LIXIL

株式会社 LIXIL は、トステム・INAX・サンウェーブ・新日軽・TOEX の5社が統合して4月1日に誕生しました

『私たちは、優れた製品とサービスを通じて、世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献します。』を企業理念に掲げています。

新社名 LIXIL の知名度をアップする目的で、全7名の著名な俳優陣がリレー形式に「リクスルって知ッテル?」をキーワードに質問をつなげていく全7話にわたるテレビCMシリーズを放映中です。放送期間は2011年5月21日（土）～7月10日（日）で、ただ今、第7話を放映中。

金属・建材カンパニー 商品本部
エクステリア統括部
〒136-8535 東京都江東区大島2-1-1
TEL 03-3638-8881
FAX 03-3638-8350
<http://www.lixil.co.jp>



新たな需要とかけ離れた生産対応

(有)岐大花だん 所 明



今年3月の東北・関東地震、原発の放射能漏れを受けて節電対策が話題となっています。節電対策といえば業界的には「グリーンカーテン」。2～3年前から密かなブームになっていましたが、今年いっきに大ブレイク！ゴーヤ、パッションフルーツは売り切れ続出！震災された皆さんには申し訳ないが園芸業界にとっては久しぶりの需要をリードする大ヒット商品の出現となりました。

また、今回のブームを受けて新たなエンドユーザーが園芸店、ホームセンターに出向かれたのも間違いない事実だと思います。

しかし、この新たなエンドユーザーは今までのエンドユーザーと違い花色が綺麗、珍しい、大きい、寄せ植えに良く似合う等々、今までの価値感では無いところに興味を持ってゴーヤ、パッションフルーツの購入に至ったと思います。

要するに育てることで「どんな効果があって、なにが得か」機能性、実益性が重要であり、生活に密着した園芸が求められているように感じます。

近年の家庭菜園ブームも同じような事が言えると思います。

しかしながら生産者は未だに花色が綺麗、大きい、珍しい、寄せ植えに似合う……等々の植物を探し求めています。

この需要とかけ離れた感覚はどこからくるのでしょうか???

ガーデンを考える会 生産者部会としては、新たなエンドユーザーの需要に応え、拡大して行く事が今、震災地に向けて出来ることではないかと感じております。



生産者部会より

ブルーデージー

兵庫県加西市にて花壇苗生産をしております高見園芸です。近年、人気も落ち着いてきていますが、ブルーデージーを生産しています。2年前、斑入り葉でもなく緑葉でもない優しい色の葉のブルーデージー「シルバーナイト」を作出しました。まだまだ、知名度はありませんが、徐々に市場での注文も増えてきています。秋から初春にかけて出荷していますので是非機会があれば、お試しいただきたいと思います。

大袈裟ですが、高見園芸は微力ながら日本を元気にする花壇苗生産を目指したいと思いますので、今後とも宜しくお願いします。
高見園芸(関西支部)

